第２回　にぎわい創出検討部会

令和４年４月14日（木）　16：00～

宇部市総合福祉会館２階ボランティア交流ホール（大）

出席者　部会長 ＋ 部会委員 １７名

00　今回のWSの目的は？

ウォーカブル、即ち「**居心地が良く歩きたくなる**」**まち**をつくるためには、常盤通りだけで完結することはできない。雰囲気の良い通りをつくることは勿論のこと、エリア全体に行きたい目的地を増やしていかないといけない。

真締川 ＋ **新庁舎広場** ＋ **井筒屋跡地** ＋ **琴芝街区公園** ＋ **商店街等**の地域特性を読み取り、それに沿ったエリア別のビジョンと方針を踏まえ、沿道建築（民間、公共）との関係を考える。

第二回となる本会では、集まった「**にぎわい創出検討部会メンバー**」と「**山口大学の学生**」が **5 つの班**に分かれ、それぞれワークショップ形式で以下の議題について議論・発表を通して意見を共有し**エリアビジョン検討**を行った。

今回のWSの議題

01 “宇部らしい” ウォーカブルな「まち」を表すコンセプトは？

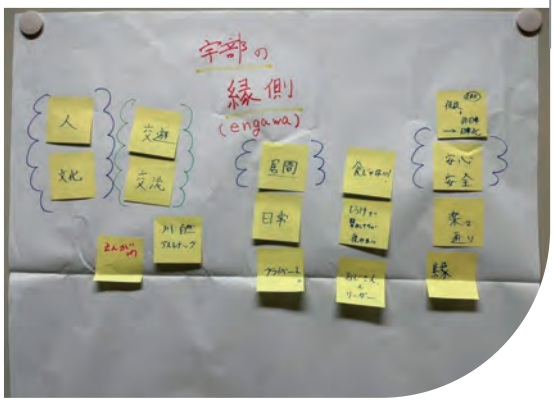
02 常盤通りの地域別にどんなゾーンわけができる？

01 “宇部らしい” ウォーカブルな「まち」を表すコンセプトは？

これからの常盤通りがどうなれば、「**居心地が良く歩きたくなる**」ウォーカブルな通りになっていくのか？
各々の思いを、**共感でき・思い浮かべやすく・未来志向**な
常盤通り＝「**〇〇〇〇〇〇**」**だね！**と
整備・活用において一つの方向性を表す言葉（**キャッチフレーズ**）を検討していく。

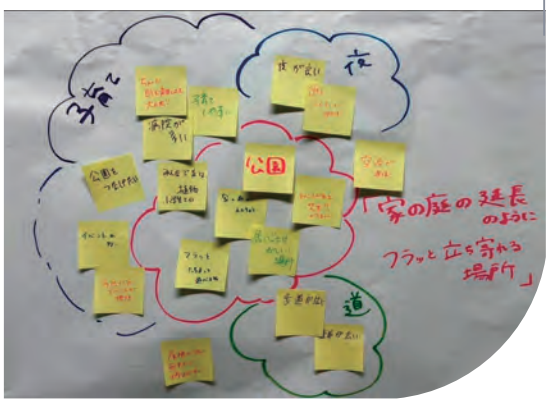
1班 宇部の縁側【engawa】

「**宇部らしいって、人と文化だ！**」という話から日常的にみんながくつろぎ、安全に過ごせるような場所として「**縁側**」というキーワードが出た。このキーワードから、飲食などのイベントをスポット的に行って人が賑わうのではなく、**全体で交流が生まれるような場所となりそこで文化 / カルチャーが混在する常盤通り**となってほしい。といった思いから、「**宇部の縁側**」というキャッチフレーズを考えた。



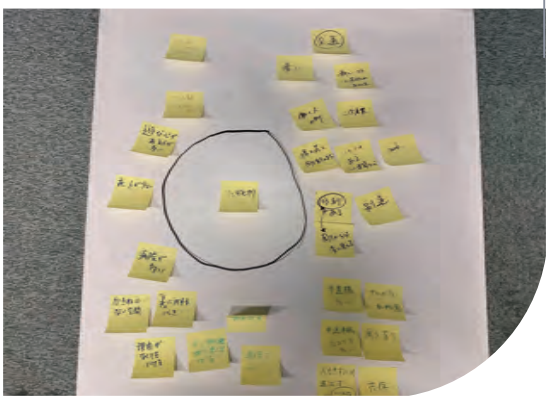
2班 家の庭の延長のようにフラッと立ち寄れる場所

宇部には**公園が多く、道が広い**という良さを見つけた。
子供たちが安心安全に遊ぶことができ、誰もが身構えずに訪れることができ、居心地がいい場所になってほしいということで**【家の庭の延長のようにフラッと立ち寄れる場所】**というイメージがでた。
このような場所を実現するために、**小学校ごとに花を植えるエリア**を通りに設置する案や**寝転がれる芝生**を設置する案がでた。



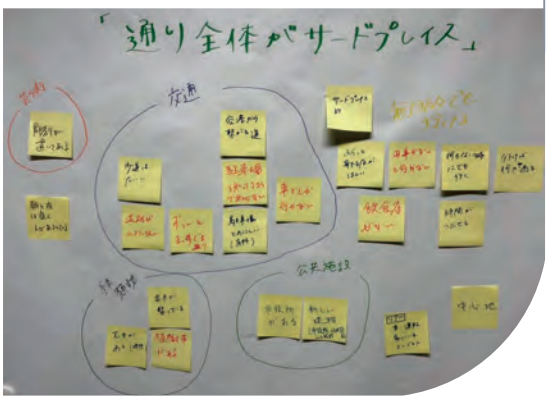
3班　ナンデモアリ

全体を通して、さまざまなやりたいことや課題点が多く見つかった。課題としては**彫刻や緑**など、埋もれている部分が多くあることがあげられた。**宇部の人々は普段からイベントが好き**であったり、新しいことに対してあまり抵抗がなかったりといろいろな人が色々なことをできるなんでもありな空間になればいいと言う意見が生まれ、『**なんでもあり**』と言うキャッチフレーズが生まれた。



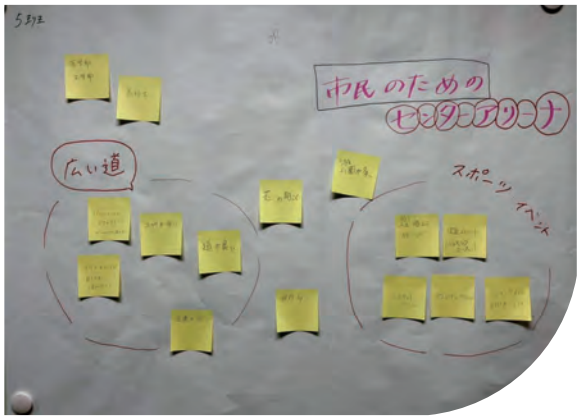
4班　通り全体がサードプレイス

普段、**常盤通りには目的がないと行くことがない**という話から、何も目的がない時でもふらっと寄ることができる空間にしていきたいという意見が出た。そこで、**自宅・仕事場以外の第３の居場所としての「サードプレイス」**というキーワードが出た。常盤通り全体が、年齢性別限定することなく、多様性のある通りとして「**通り全体がサードプレイス**」というキャッチフレーズを考えた。



5班　市民のためのセンターアリーナ

今の宇部にはみんなが集まる中心的な場所がはっきりしていないため、**常盤通りを気軽に集まることができる場所とするのが良い**という案が出た。そこで、常盤通りを「**市民のためのセンターアリーナ**」として、学生の部活動の発表の場、バスケットやパルクールのスポーツを常盤通りに持ってくることで、**市民の活動が目に見えて、イベントの時だけでなく日常でも通りを盛り上げる**ことができるのではないかという話になった。



02　常盤通りの地域別にどんなゾーン分けができる？

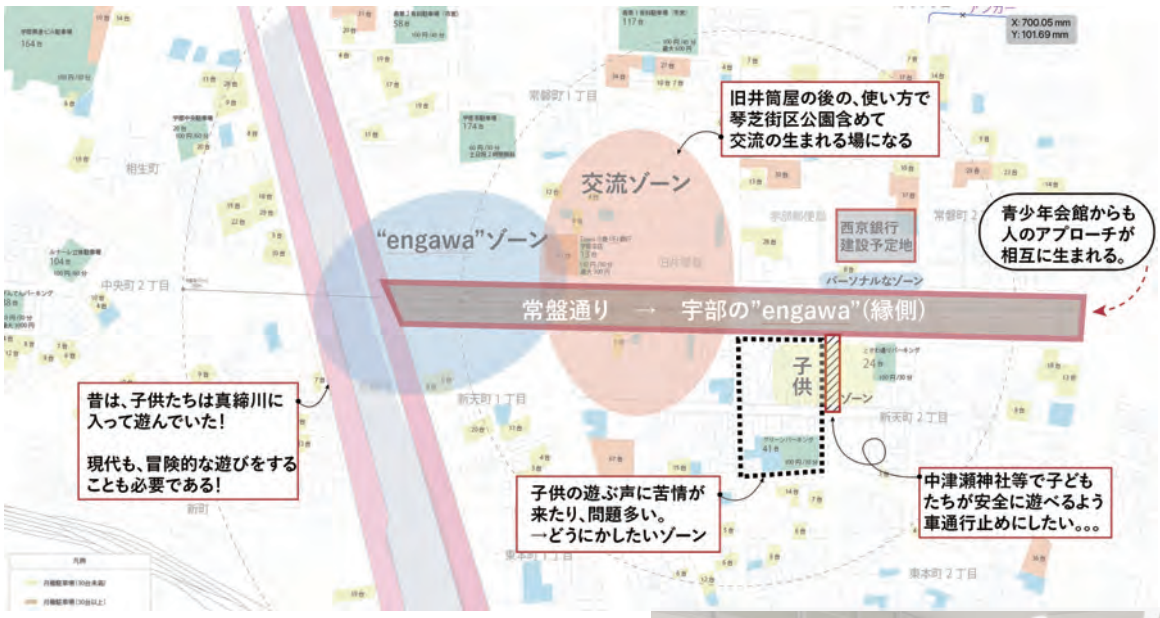
常盤通りだけでなく、

その周辺にある**真締川＋新庁舎広場＋井筒屋跡地＋琴芝街区公園＋商店街 等**

これらの地域特性を踏まえた上で、今後常盤通り周辺にどのようなゾーンわけができるかを

キャッチフレーズから検討していき今後の常盤通りに求める**ビジョンを掘り下げていく**。

1班



中津瀬神社や福岡銀行周辺を「子供エリア」としてアーケードに向かう道路を車通行止にしたい。

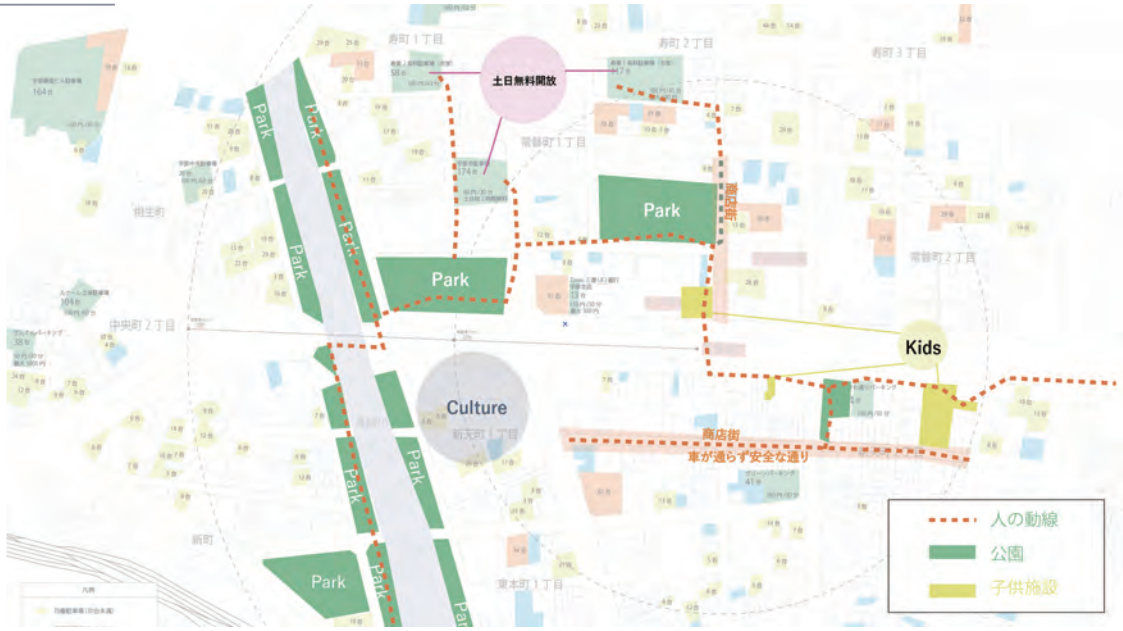
「着物のえむら」や「Ajisu farm」前の歩道はパーソナルな場所になるがチャレンジショップなどしたい。

真締川沿道にもっと交流が生まれるようになってほしい等の意見は出た。

しかし細かいゾーニングは難しいことから、常盤通り全体が「縁側」のような空間として機能しながら周辺の

「真締川」「宇部市勤労青少年会館」とつながって人がより歩くような空間となればという結論であった。

2班



公園と公園、公園と子供のための施設を繋ぐような動線を提案する。

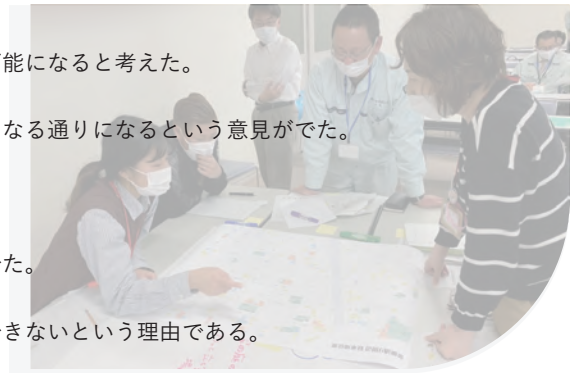
公園の緑を追うことで、歩くことが楽しく、長く常盤通りに滞在することが可能になると考えた。

通りの花壇に木や花を植えることで、公園の延長線上になり、もっと歩きたくなる通りになるという意見がでた。

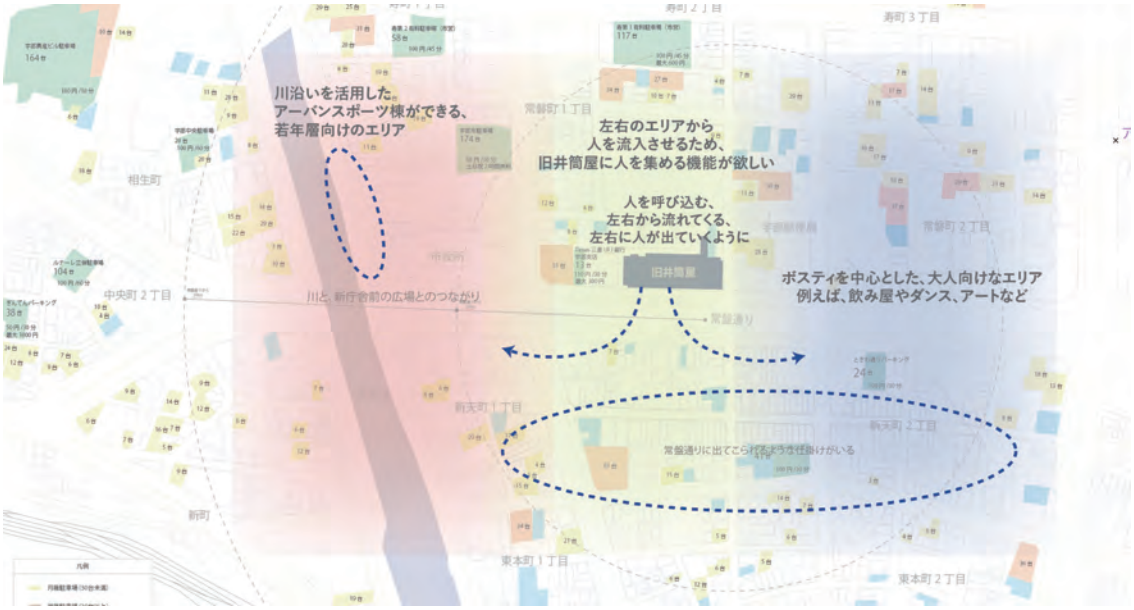
また、商店街は、車が通らないので安全な場所であるという意見がでた。

そのような動線を実現するために、土日限定で駐車場の無料開放をする案がでた。

駐車場が有料だと、時間を気にして長く滞在することやふらっとくることができないという理由である。

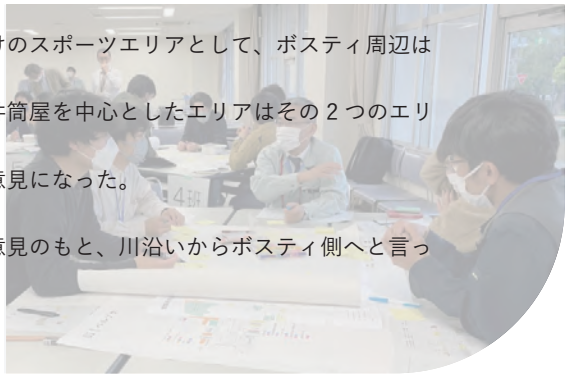


3班

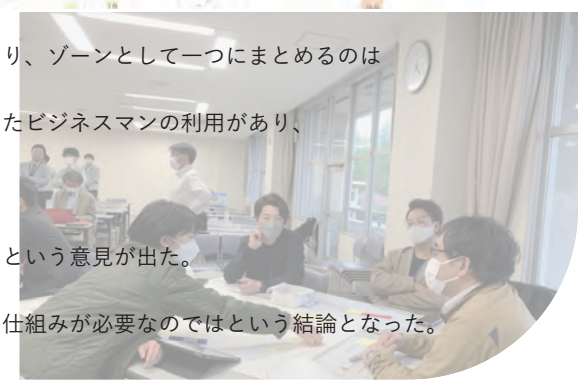


将来像として、川沿いが市役所周辺の緑地帯と関係性を持った、若年層に向けのスポーツエリアとして、ボスティ周辺はダンスやアート、飲み屋といった店が立ち並ぶ大人向けのエリアとして、旧井筒屋を中心としたエリアはその２つのエリアを繋げ、人が流れていく機能が入るエリアとなっていった方が良いと言う意見になった。

現在の計画では、真締川沿いからボスティ前まで人が流れるか不安だという意見のもと、川沿いからボスティ側へと言った人の流れを作る発想が多かった。



4班

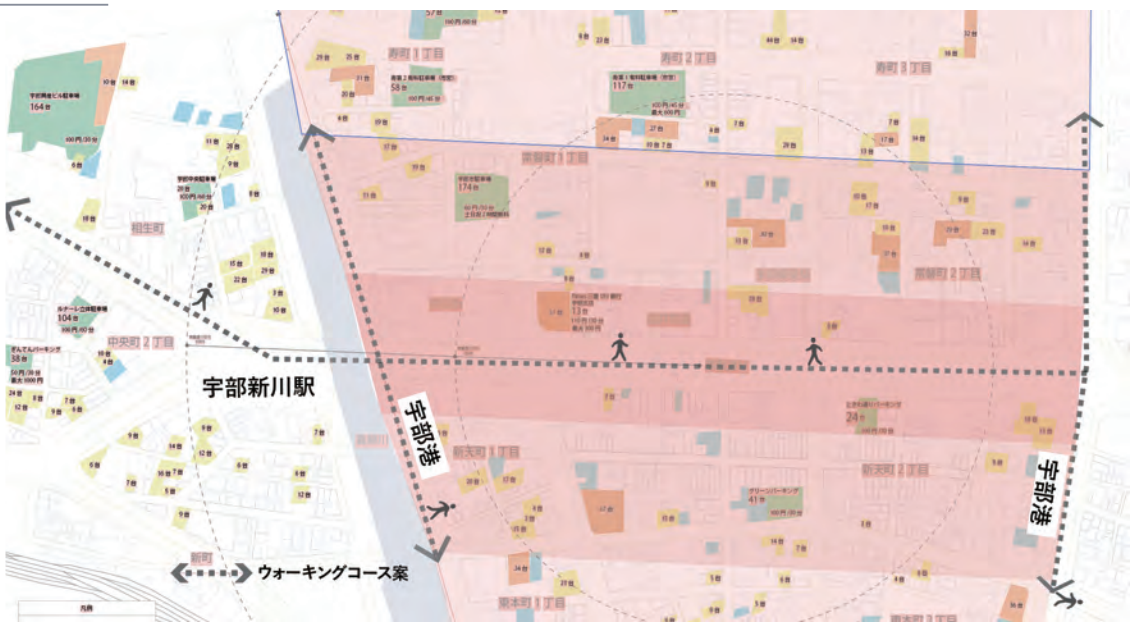


沿道の建物は多種多様な用途であるため、時間帯別によって利用者層が異なり、ゾーンとして一つにまとめるのは難しいという意見が出た。強いていうならば、市役所、山口銀行を中心としたビジネスマンの利用があり、ランチタイムでは飲食店への誘導ができるのではと考える。

またランチタイムに合わせて、キッチンカーを出店させて副道を活用しようという意見が出た。

時間帯によってターゲットを変化させ、それぞれのターゲットが連携できる仕組みが必要なのではという結論となった。

5班



常盤通りをウォーカブルにするためには、わざわざゾーニングをしなくても良い、ポテンシャルが高い場所になっているため、通り一帯を新しいゾーンとして発展させ、これからこの通りで何をするかを、ゾーニングに縛られることなく考えることができる、という考えになった。

また、常盤通りを中心に新天町や真締川沿い、琴芝通り、港の魚市場をつなげて歩くと心地よいコースとなっているため、朝のジョギングをする人や出張で宇部を訪れてきた人にも伝わるコースを示すのも良いのではないか、という提案も出た。

03 ワークショップのまとめ

“用があってもなくてもフラッといける公園のような、居心地の良いサードプレイスで、日本一安全で、縁側のように人々が交流し、運動や活動の発表の場となるようなセンターアリーナとしての 常盤通り”

○キーワード一つ一つは重要なので、今後のつなげ方が重要となってくる。

ゾーンという概念は、アイデアの活性化のためのツールとして必要であり結果として活動を支えるエリアになるように発展性を考えるのに重要だ。

周囲の環境、常盤通りを包む宇部新川駅、魚市場、真締川を考えた拡張性を考慮したときに、

民間で連帯して賑わいを生むことで収益を生む循環を考える可能性もあるのでは？

<Ex. 柳井での民間事例 >

民間の月極駐車場のうち赤い枠を設けたものに限り、土日限定で観光客向けに無料開放を行っている。

行政主導ではなく、民間で有志で行っている。

○駐車場が、大事であり、絶対必要ではある。

しかし、そこの施設だけ訪れて帰るのではなく、その中で歩き回ってもらえるような仕組みが大事である。

環境的な価値と同様に**経済的な価値**を考慮することも重要である。

＜Ex. 出雲大社の事例＞

最寄りの駐車場を残しながら少し離れたところに駐車場を作って、参道を歩きやすいようにした結果

通行量、お土産屋さんの店舗数、売上数が伸びた。

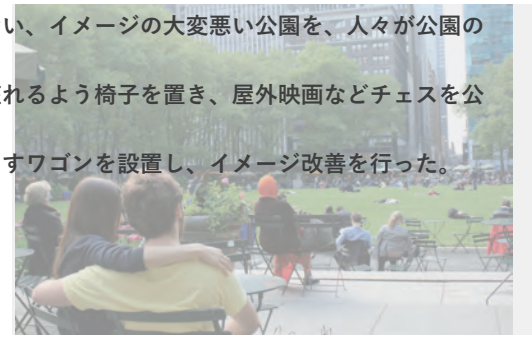
コラム

ワークショップ中に出た、取り組みや事例紹介

01 ブライアントパーク　@　NY. マンハッタン

1930 年には公園として整備されるも、土砂の置き場所として使われ周辺から見えない生け垣などを設置したため、麻薬の取引がされるような治安の悪い場所となっていった。

人々の近寄らない、イメージの大変悪い公園を、人々が公園の好きなところで座れるよう椅子を置き、屋外映画などチェスを公園利用者に貸し出すワゴンを設置し、イメージ改善を行った。



△ 参考 URL

02 希望のまちプロジェクト　@ 北九州市

日本で唯一、「特定危険指定暴力団」工藤会の活動地であった北九州市から怖いイメージを払拭するために、子どもや若者を含む全世代が地域で共に生きていくための拠点としてまちづくりを行い、再生させる事業。

「ひとりも取り残されないまち」を目指し市民参加で NPO 法人抱樸（ほうぼく）が行っている。

△ 参考 URL

03 PLAY CAR 事業

遊び道具＝プレーキッドを詰め込んだ軽トラック（バン）が、公園や空き地、公民館広場、子育てひろば、幼・保・こども園、カフェなどの外遊び空間に来て、子どもたちにおもちゃを貸し出し、楽しい空間コーディネートを行う事業。

△ 参考 URL

04 縁食論 - 孤食と共食のあいだ -　藤原辰史 著

縁食とは、藤原さんの造語。その場に複数の人間がいるから「孤食」ではないけれど、強い共同体意識を求める「共食」でもない。

この場合の「縁」とは「深くて重いつながりではなく、単に、めぐりあわせ、という意味だ」と藤原さんは云う。

△ 参考 URL

05 サードプレイス

自宅や職場での役職から離れ、リフレッシュや新たなやる気を生む交流のある場所。

ファーストプレイス：　第一の居場所である家　ex）住宅

セカンドプレイス　：　自宅以外の長い時間過ごす場所

ex）　オフィス / 学校 / 職場 / 学校

山口大学工学部
図書館エントランス ▶

06 健康ストリートパーク@中国 上海

中国の公園や道には子供向けの遊具だけでなく、健康づくりのために大人向けの遊具が設置されており、歩くだけでなく健康のきっかけづくりが通りの至るところになされている。

07 パルクール

　走る・跳ぶ・登るといった移動に重点を置く動作を通じて、心身を鍛えるスポーツ（運動方法）です。

　パルクールにおける移動の動作の練習を通じて己の機能性、体力、バランス、空間認識力、敏捷性、コーディネーション能力、正確さ、コントロール、創造的視点などを鍛えていきます。

△ 参考 URL

00

関連する事例等あればここで共有します。